

(別紙様式3)

2022年3月31日

## 事業完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町 601 番地

管理機関名 同志社

代表者名 八田英二 印

令和3年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

2021年4月1日（契約締結日）～2022年3月31日

#### 2 事業拠点校名

学校名 同志社国際高等学校

学校長名 戸田 光宣

#### 3 構想名 国際共同研究を通じたグローバルな人材育成コンソーシアム

#### 4 構想の概要

「まち」は社会生活の基盤である。その「まち」には、今さまざまな問題が複雑に関連し合いながら存在している。次代の「まち」を担う高校生達にとって、これは誰もが直面する問題である。

「まち」の抱える問題は、それぞれの地域ごとによって様相が異なる。また世界的には「まち」の問題には先進的な取り組みをしている都市がある。これらのさまざまな世界の取組を学び、「持続可能な都市の構築（SDGs #11 住み続けられる街）」を題材に、PBL型の探究学習を通してグローバルな人材育成をするプログラムを構築し、システム化することをこの事業で目指す。

今回の事業では、管理機関が設置する大学の先進的な研究と、海外・産業界を含む多様なネットワークを活用し、高校生へより高度な学びを提供する仕組みを構築するとともに、本校の帰国生徒受入校としてのネットワークを活用し、国内にとどまらず世界の連携校との共同研究による深い学びを実現する。

#### 5 教育課程の特例の活用の有無 無

#### 6 管理機関の取組・支援実績

##### (1) 実施日程

業務項目	実施期間（2021年4月 1日 ～2022年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	—————▶											

##### (2) 実績の説明

さまざまな業務についてメールを通じて事業拠点校と着実にやり取りと行った。

## 7 研究開発の実績

### (1) 実施日程

業務項目	実施期間（2021年4月1日～2022年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生必修科目 Sustainable Society Study	対面 授業	対面 授業	対面 授業	対面 授業		対面 授業	対面 授業	対面 授業	対面 授業	対面 授業	オン ライ ン授 業	オン ライ ン授 業
2年生選択科目 Sustainable Society Research	対面 授業	対面 授業	対面 授業	対面 授業		対面 授業	対面 授業	対面 授業	対面 授業	対面 授業	オン ライ ン授 業	オン ライ ン授 業
3年生選択科目 Sustainable Society Design	対面 授業	対面 授業	対面 授業	対面 授業		対面 授業	対面 授業	対面 授業	対面 授業	対面 授業、 卒業 論文 執筆	オン ライ ン授 業	
グローバル教育 研究委員会	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施

### (2) 実績の説明

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月は全校一斉オンライン授業となり、他校との交流も制限され、また新しい生活様式への対応に迫られたことで、計画通りに進まなかった部分もあった。1年生では対面授業とオンライン授業のハイブリッドで、外部講師の講演なども積極的に行い、ワークシートブックも作成できたため、来年度以降、連携校に共有可能である。2年生、3年生では選択科目であることから、意欲的な生徒が多く、2年生では地元京田辺市の課題解決に取り組んだり、3年生では政策提言の動画作成やドイツのまちづくりに関するリサーチブックを完成させるなど、生徒達は意欲的に学習に取り組んだ。委員会は定例で実施し、次年度以降の連携校との共同研究、国際会議の実施、コロナ禍で可能なフィールドワークに向けて具体的、詳細な計画を策定した。本校の特徴は、国語科、数学科、理科、社会科、英語科、情報科、聖書科など複数教科の教員が本事業での授業にかかわり、ティームティーチングを行っていることであり、次年度には家庭科、美術科の教員も加わる。また、オンライン教育に関しても Google Education Plus, Office365, Zoom, YouTube など様々なツールをフル活用して行っており、オンライン授業期間中は選択科目を含むすべての講座がオンライン授業になるなど、他校に類を見ない先駆的な取り組みを行っている。

## 8 目標の進捗状況、成果、評価

概ね順調に推移しているが、プログラムの性質上、コロナの影響は大きい。普段の授業をきちんと構築、実施し、ズームでの国際会議などにいくつか参加しイメージをつくったり、オンラインだからこその可能性を探ることもできたので、その点では成果があった。フィールドワークはまちづくりを積極的に行っている国内複数箇所を下見に行くことができ、大きな収穫があったが、学校が都会にあるため、まん延防止などが断続的に発令されて先を読むのが難しく、実施はできなかった。授業で生徒に報告を行うことはできた。

## 9 次年度以降の課題及び改善点

今年度ほとんどできなかった、連携校との共同研究を開始する。すでにやりとりを始めている企業、国際機関との共同プログラムを実施する。

### 【担当者】

担当課	同志社国際高等学校	TEL	0774-65-8911
氏名	西田 喜久夫	FAX	0774-65-8990
職名	教頭	E-mail	jimu@intl.doshisha.ac.jp